

平成20年度八重山群島病害虫発生予報第5号(8月予報)

8月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	30	30
平年並	40	40	40
低い(少ない)	20	30	30

(平成20年7月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	28.9	31.5	26.8	248.5	236.4

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

8月の発生予報および防除上の注意事項

八重山群島

1 水稻(2期作)

移植期におけるスクミリンゴガイの防除対策

- 例年、スクミリンゴガイの被害は2期作に多く見られる。
- 貝及び卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
- 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- 移植後2～3週間は浅水管理(1cm以内)に努め、貝の活動を抑える。
- 畦畔および水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
- 石灰窒素等による防除を図る。

2 さとうきび

イナゴ類の防除対策

- 7月下旬における巡回調査の結果、一部地域でイナゴ類による、さとうきび、ススキなどの葉の食害が見られた。
- 種類はヒゲマダライナゴとタイワンツチイナゴで、ヒゲマダライナゴの発生が多く見られた。
- 発生の多い圃場および牧草地では薬剤防除を行う。
- 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。

3 マンゴー

収穫後の病害虫防除対策

- 収穫後、結果枝を切り返して発生する夏秋梢と花痕枝から発生する新梢は次年度の結果母枝となる。充実した健全な結果母枝とするためには徹底した病害虫防除が重要である。
- 灌水を行う際、噴霧機などでアザミウマ類、ハダニ類やカイガラムシ類などの微小害虫を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- 新梢の発生を揃えることで、アザミウマ類防除の効果が高くなることから、施設ごとに剪定を同時期に行う。
- 近年確認された、マンゴー枝枯細菌病(仮称)は8月後半から見られるので、剪定器具は剪定を行う毎に次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行う。
- 剪定を行った後の残渣は、病害虫の発生源となるため、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- マンゴー枝枯細菌病(仮称)については、平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号参照(平成20年8月1日付け)。